

## こころグループ-保育士のためのリトピュア式指導法講座

### ■確認ドリル 1 ■

#### 絶対音感の導入：毎日1回の習慣でできる！簡単音感レッスン

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) 保育園で行っていただく( )は、なんといっても日々、継続して行えることにあります。
- (2) 子どもたちと多くの時間を共有できることを活用して、ぜひ( )の中で繰り返し、育んでいただきたいのです。
- (3) より( )を引出す子どものとの接し方は、3つあります。
- (4) 「視線」  
子どもと、しっかりと( )と目を合わせてくださいね。  
先生の位置が高くならないように、小さくなって近づいて合わせましょう。
- (5) 「表情」  
子どもたちは、先生の笑顔が大好きです。  
でも、気をつけていないと、意外と自分が思っているよりも( )が弱いことがあります。
- (6) 笑顔になるコツは、「( )を上げる」です！
- (7) 「声」  
声は小さくなくても大丈夫ですが、ハッキリと( )ように話しましょう。
- (8) ハーイ！というお返事を、「リトピュア( )の歌」で行います。  
身近なことから「絶対音感」レッスンへとつながっていきますよ。
- (9) 何度も呼ばれる「名前」ですから、敏感に反応します。  
そこで、先生は子どもの名前を、( )をつけて呼びます。
- (10) 子どもは、その名前と共に、音を( )としているのです。
- (11) このとき、声が出なくても、手を上げるだけでも、  
恥ずかしがってしまっても、いいのです。  
すべてが、その子の「できた」素敵な( )です。
- (12) ( )で、言葉をかけて褒めてくださいね。
- (13) 「聴こうとする耳」が育ち、人の話が「( )力」が身につく
- (14) 音楽があること！リズムがあること！  
それは、心を楽しむ( )があります。
- (16) この意欲的に( )行為が  
「絶対音感の基礎」を育む、第一歩なのです。
- (17) 毎回の成長を、ママパパにお迎えのときに( )くださいね。

## こころグループ-保育士のためのリトピュア式指導法講座

### ■確認ドリルー2■

#### 0歳ベビーからリズム感アップ：赤ちゃんの「できた」を見つけ伸ばす

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) 大きく受け止めて、0歳児の「（ ）」を見ていきましょう。
- (2) 0歳児の「できた」を、先生が（ ）で気づけたとき、たくさんの感動を、味わうことができます。
- (3) 乳幼児期から、それぞれが持つ（ ）を引出すことができます。
- (4) もう一つ大事なことがあります。  
それは、日常そばにいる（ ）にも、ご理解いただくことです。
- (5) 保育中に先生が（ ）、子どもの「できた」を親御さんにも、どんどんお伝えしましょう。
- (6) 「0歳から、こんなにできるんですよ」  
という先生の（ ）を伝えることで、一緒に共感できますね。
- (7) 「ロンド」のねらいは、先生の動きから、抱っこされた赤ちゃんに、（ ）を伝えることです。
- (8) リトピュア式では、よくある普通の曲を、リズム感を大切に（ ）しています。
- (9) 赤ちゃんを（ ）して、何人かの先生で円になって、ステップすることを想定しています。
- (10) 次のことに気を配り、楽しく（ ）を出しましょう。
- (11) 子どもの様子を見ながら動き随時、（ ）をかける
- (12) リーダーとなった先生は、少し（ ）に他の先生に動きの指示をする
- (13) 横に、ユラユラユーラのところは、赤ちゃんを揺らすのではなく、（ ）の動きからリズムを伝える
- (14)（ ）を呼んで目を合わせ、声をかける
- (15)（ ）が音楽を楽しんでリズムにのる
- (16)（ ）と明るい声で行うことで、より効果的に伝わりますよ。

### ■確認ドリル-3■

#### 集中力を育む絵本の魅せ方：お話リトミックの読み方実演とコツ

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) ( ) ではない、絵本の時間
- (2) ( ) に見ているだけが、集中しているときではありません。
- (3) ( ) の世界に、スルッと入り込んだ子どもは、
- (4) 絵本に ( ) みたい！
- (5) 絵本の ( ) に返事をしたい！
- (6) 絵本の ( ) を表現したい！
- (7) じっと見ているだけでなく、( ) します。
- (8) 子どもの自ら感じたままの素敵な ( ) です。
- (9) どの子ども「( )」で、聴いて感じているのですね。
- (10) 大事なことは、読む前の ( ) づくり
- (11) ( ) で言わなくても、自然に子どもたちを惹き込めるように、読む前から楽しく、ワクワクさせることが重要です。
- (12) 絵本の時間は、どんな本でも ( ) 。  
子どもが集中できる、ちょうどよい時間に合わせてつくっています。
- (13) リトピュア式の絵本の魅せ方は、子どもが、楽しむ！  
観て聴いている、子どもが ( ) なのです。
- (14) 絵本を選び、その絵本ごとの ( ) を見つけます。  
そのリズムを大切に、先生はお話の世界を演じていきます。
- (15) そのために必要なことは、  
絵本をよく( )をして、その内容を十分に理解しておくことです。
- (16) 読むときの注意
  - ①絵本の ( )
  - ②絵本の角度
  - ③ページのめくり方

## こころグループ-保育士のためのリトピュア式指導法講座

### ■確認ドリルー4■

#### リズム感の基礎編：キャラクターに親しみ「絶対拍」を育む

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) 「絶対拍」とは、リズム感の（ ）となる正しく拍をとる力のことです。
- (2) リトピュア式は、この「（ ）」を乳幼児期に身につけることを、とても重要と考えています。
- (3) 「リズム感」は、音楽だけのものではないからです。  
スポーツ・ダンス・（ ）を学び習得するなど、生きていく上でのさまざまなシーンで役立つものなのです。
- (4) 簡単で最も成果が出る方法は、日常のあそびの中で身につくことを、（ ）すること！
- (5) リトピュア式の楽しいカリキュラムを使って、日常の保育の中で（ ）なく身につけていきましょう。
- (6) 表がキャラクターの絵で、裏には6種類のそれぞれ違った（ ）があります。
- (7) キャラクターリズムカードを使ったレッスンは、右脳の特徴である、見たまま聴いたまま、感じたままにイメージして、五感、（ ）で瞬間的に記憶する力を活かしていく方法です。
- (8) 視覚イメージ、（ ）イメージ、体感イメージで習得していきます。
- (9) 視覚イメージ⇒ キャラクターと（ ）の絵を、視覚的にインプットする
- (10) 聴覚イメージ⇒ キャラクターの音を聴いて、拍の（ ）を聴覚でとらえる
- (11) 体感イメージ⇒ キャラクターの拍を（ ）で体感し、長さを感じる
- (12) （ ）に出し、動くことによって、そのまま拍を感じていくことができるのです。
- (13) 「リズム感」の基礎となる「（ ）」を、正しくとれるようになるために最適な教具です。
- (14) リトピュアの（ ）の特徴は、そのまま言えば、正しい拍数を延ばせることです。
- (15) うしの「もおくん」なので、モーオと（ ）拍。  
ライオンの「があおくん」なので、ガーアーオと3拍。
- (16) 滑舌よく、言葉をハッキリと発することで、拍の長さを（ ）捉えられます。

### ■確認ドリル-5■

#### リズム感の応用編：即時反応でリズム感をワクワク磨く方法

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) 応用編は、3歳から6歳位のお子さんに、難易度を調整して行い楽しく（ ）を身につけるために活用できます。
- (2) 楽譜のように左から右に「ワンワンワン」と（ ）を進めていき、1拍目に戻り繰り返したたきます。
- (3) 絶対拍 ×（ ）カ
- (4) 先生は、拍が進んでいるカードの（ ）を、手で指してあげます。
- (5) タイミングよく、「ハイ」とかけ声を入れ、（ ）を止めないように、カードを変えます。
- (6) メトロノームなどで、（ ）を決めてキープして行うといいです。
- (7) 先生が不安なく、（ ）にのってできることが大切です。
- (8) このカリキュラムの一番のねらいは、「（ ）」です^^
- (9) その拍の変化を、（ ）にキャッチし反応して、子どもは、止まらずにたたけるようになりますよ。
- (10)（ ）、即時反応、リズム感と  
いろいろな音楽要素が詰まったレッスンになっています。

### ■確認ドリル-6■

#### ダンスでマインドアップ：クラシックをヒップホップで踊る！

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) リトピュア式のダンスは、親子レッスンでも（ ）が本気で踊るヒップホップダンスの音楽と振付になっています。
- (2) 3ヵ月で、少しずつ振付を覚え馴染んで、最後はワクワクと楽しく踊れる、ちょうどよい（ ）になっています。
- (3) そして、選曲も多岐にわたっており、さまざまな曲をリズム溢れる（ ）にしています。
- (4) リトピュア式の特徴は、（ ）を取り入れていること、
- (5) （ ）に聴き入っていたり、先生やみんなの動き見ていたり、恥ずかしがる子もいるかもしれません。
- (6) そんなときは、子どもの気持ちを受け止め、「見ててもいいよ！」と見守っていて、動きはじめたら、すかさず変化を言葉にして（ ）ましょう！
- (7) そして、先生は、リズムにのって、（ ）に踊ってくださいね
- (8) 小さな変化を（ ）、言葉にして褒めてください。
- (9) どんどん（ ）を出していく子どもの様子を、日々、親御さんに伝えましょう。
- (10) ゆっくりなところと、リズムカルなところをはっきりと（ ）しましょう
- (11) ピタッと止まる場所は、（ ）に止まって動き出すと面白いです
- (12) このダンスは、うまく踊ることが（ ）ではありません。リズムにのって、自然に動けていたらOKです。

## こころグループ-保育士のためのリトピュア式指導法講座

### ■確認ドリル7■

#### 親御さん対応・言葉がけ：ママパパ目線になるために必要なこと

下記の（ ）に適切な言葉を入れましょう

- (1) 私たちが相手に想いを伝えるためには、（ ）を届ける以外に方法はないと思うのです。
- (2) 「気持ちを（ ）する」ことが必要です。
- (3) それは、子どもへの「言葉がけ」だけでなく、自分を取り巻く人間関係、誰に対しても（ ）ことです。
- (4) 伝える言葉が磨かれることによって、人との良い（ ）をつくりあげることできます。
- (5) 子どもを褒めるとき、どのように伝えていますか。  
大事なことは、（ ）、感じたままを伝えることです。
- (6) （ ）に、言われなければ、何を褒められているかがわかりません。
- (7) 何を褒められたのかな、が（ ）
- (8) 先生、自分を見てくれたんだ、と（ ）
- (9) 「よく音を聴けてたね、リズム合ってる合ってる」と言われた方が、自分が褒められてると、（ ）できませんか。
- (10) まだ小さいから、（ ）……は、ありませんよ。  
0歳児ベビーちゃんも、この違いは感じています。
- (11) 「見たまま、感じたまま」を（ ）にすればいいだけ、
- (12) リトピュア式の音楽を使ったカリキュラムは、  
0歳から6歳の様々な感性の子ども「（ ）」をつくってあるのです。
- (13) 親御さんの正面にならないで、（ ）に位置するようにしましょう。
- (14) もう一つ大事なことは、「（ ）」です。
- (15) 落ち着いた（ ）で話すこと
- (16) 句読点では、（ ）空けること
- (17) 相手が（ ）ができて、話している内容が理解されやすくなります。
- (18) 相手を認めるコミュニケーションが生む良い（ ）
- (19) 忙しい先生ですが、「1分」でも、  
そのお子さんのことの「今日の（ ）」を、具体的に褒めて伝える。
- (20) そんな癒しを、親御さんに（ ）できる！  
保育士さんは素敵な仕事ですね。